

猿新聞

編集責任者
山村 準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp
名張鳥獣害問題連絡会

発行部数
【全戸回覧】
錦生地区：100部
赤目地区：150部
箕曲地区：70部
ひなち地区：220部
つつじが丘：430部
【全戸配布】
国津地区：380部
市民センター：90部
(9地区)
名張市議会：20部
名張市役所：30部

獣害対策

自然界の復活が先決

全国的に鳥獣による農作物被害が深刻化しています。近年では季節に左右されることなく市街地にまで及んでいます。その背景には、「自然環境開発など人間活動」「自然に働きかける人圧の低下」「外来種問題」「地球温暖化問題」などが指摘されています。

また、河川改修に伴う堤防やダム建設によって、多くの水に棲む固有の生き物が姿を消しています。

今見直され、復活に取り組んでいる地域もあります。

「自然環境開発など人間活動」「自然に働きかける人圧の低下」

反面、里山のように長い年月、人が関わり維持されてきた里山は、人間が関わりなくなつて以来、里山としての機能を失ってしまいましたが、改めて「緩衝地帯」としての機能が

迎えたのは、いわゆる肥料革命・燃料革命がもたらされた昭和35年ころです。農業には化学肥料。燃料が石油や石炭に替わったことにより、薪炭不要。つまり、営農のためにも生活のためにも、里山を必要としなくなつて、長らく山村の暮らしを

「鳥獣害問題」は、私たち人間の勝手な活動がもたらしたもので、私たち自身が解決しなければならぬ「環境問題」の一として、考えなければならぬ課題です。

「外来種問題」は、世界は、長距離を移動可能な交通・輸送手段の発達で身近になったといわれています。

このように自然界は適正な人間の管理を必要としているのです。

また、殺虫剤や除草剤などを含む、様々な化学物質も、人間が生態系に悪影響を及ぼしています。

「地球温暖化問題」は、さらに大きな問題は、近年起きている地球温暖化による気候変動です。

「人間と鹿の関係」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

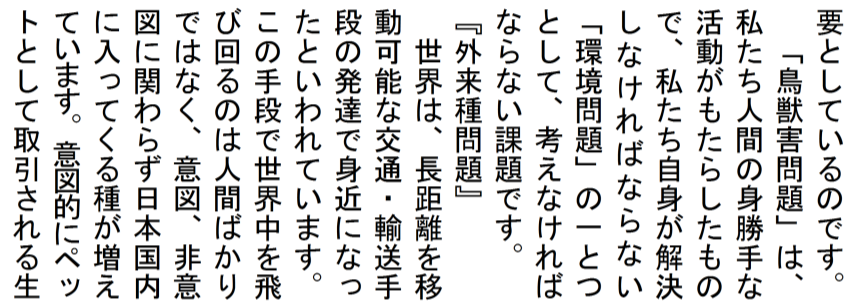
「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。



全国的にこのような大規模開発が行われた。桔梗が丘団地開発 昭和38年頃

「鳥獣害問題」は、私たち人間の勝手な活動がもたらしたもので、私たち自身が解決しなければならぬ「環境問題」の一として、考えなければならぬ課題です。

「地球温暖化問題」は、さらに大きな問題は、近年起きている地球温暖化による気候変動です。

「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

いものも多い一方で、一部の種が人間の不注意で野外へと逃げ出し、在来の生き物を食べ尽くしたり、棲家を奪うなど、もともとその場所での生活していた在来の生き物との間で競争が起きます。

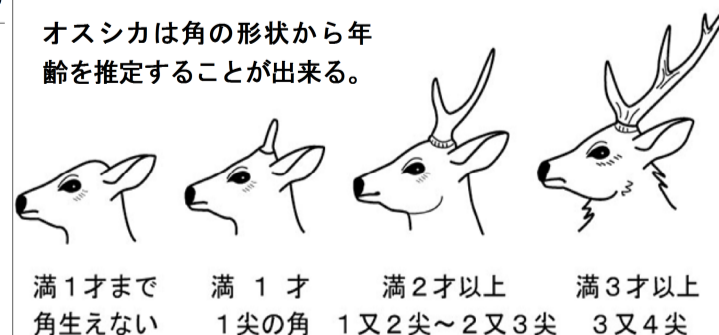
「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

鹿を知ろう①



オスシカは角の形状から年齢を推定することが出来る。

満1才まで 角生えない	満1才 1尖の角	満2才以上 1又2尖~2又3尖	満3才以上 3又4尖
----------------	-------------	--------------------	---------------

自然環境に大きな影響を及ぼし、動物の生育環境の悪化などの問題が生じているほか、森林の多面的機能にも大きな悪影響を及ぼしてまいりました。

「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

「人間と鹿の関わり」は、人間と鹿の関わりは、縄文時代まで遡ることが出来ます。

る時などは3歳近い幅で飛び跳ねるように逃げます。奈良公園にいるシカが「信号を守っている」と話題になったことがありません。しかし、シカは「色盲」なので色を区別して認識することは出来ません。シカは偶蹄目で反芻動物です。

繁殖
繁殖期は秋季（10月頃）。オスの小鹿は1歳2歳で、メスの群れから離れます。これは近親交配を避けるためだと言われています。シカはオスとメス、別々に群れを形成し、メスの群れは「メスと小鹿」、オスはオス同士の群れを作る、または単独で生活しています。

シカは一夫多妻で、強いオスが縄張りを作って、メスとハーレムを形成します。妊娠期間は約7カ月、春（5月頃）に産出し、毎年1頭（1産1子）を産みます。小鹿は約10〜12ヶ月で離乳し、オス・メスとも約16〜18ヶ月で性成熟します。飼育下のシカの寿命は、約15〜18歳とされ、中には25歳を超えたシカもいるそうです。栄養状態が良好であれば、妊娠率は70〜80%と言われます。70〜80%と言われます。さらに、10歳を超えても、妊娠率は90%と低下しないことから、シカは繁殖力の高い動物と言われます。餌が豊富な環境下には、餌が豊富な環境下には、10%以上のメスが10年間、毎年1頭の小鹿を産み続けるという推定があります。自然増殖率は20%と言われ、おりの捕獲率を4倍増やせば、個体数を抑えるにはメスシカの捕獲が効果的です。

鳥獣被害防止対策 国・三重県・名張市・任意団体の取り組みについて

古川 高志

- ①国の法律「鳥獣による農林水産業等に係わる被害の防止のための特別措置に関する法律」が平成19年12月成立。
- ②平成19年法律第百三十四号により「鳥獣被害防止特措法」として施行。その後課題への対応を強化するため、平成24年・平成26年・平成28年12月2日施行が現最終更新公布により政策の実施は、農林水産大臣が作成した被害防止施策の基本指針に則して、市町村が被害の実態に対応した鳥獣被害防止計画を作成する。これにより被害防止計画を作成した市町村に対して、国や県などが連携して、一、財政支援、二、権限移譲、三、人材確保により支援処置を実施。
- ③三重県では平成29年4月1日〜平成34年3月31日までの5年間の計画で第12次鳥獣保護管理事業計画により実施中。
- ④三重県では平成29年4月1日〜平成34年3月31日までの5年間の計画で第12次鳥獣保護管理事業計画により実施中。
- ⑤三重県では平成29年4月1日〜平成34年3月31日までの5年間の計画で第2期。
- ⑥第2種特定鳥獣管理計画（二ホンザル）実施中。サルについては、平成13年度からメスザルに電波発信機を取り付けられ、動向が把握できるように平成14年より三重県の事業として、三重県サル位置情報システムとしてラジオテレメトリー法によって位置情報がわかるようになり、その後任意団体「サルどこ」ネットが構成され、メンバーによって継続的に位置情報がわかるようになり現在に至る。
- ⑧名張市では平成29年3月31日に名張市鳥獣被害防止計画が公告された。又、平成24年3月27日告示、名張市鳥獣被害対策実施隊設置要綱（平成30年9月21日告示が現行）
- ⑨平成7年3月31日告示、名張市鳥獣害捕獲事業報告書（平成23年3月31日告示が現行）
- ⑩平成31年3月28日、名張市鳥獣被害防止事業補助金交付要綱決まる。
- ⑪これらに基づき宇陀市、名張市では県境を跨ぐ猿被害防止の為に平成18年宇陀・名張地域鳥獣害防



ファット一服 人間と動物の共存

平成6年、全国で「平成狸ぽんぽこ」という映画が上映されました。昭和40年代多くの狸や狐、猪、鹿などの野生動物が平和に暮らしていた東京多摩丘陵地帯。そこに多摩ニュータウン開発計画が起り、山や森が破壊されてゆくことに反対した動物たちが集まり相談。狐、狸を前に立て化学（ばけがく）を駆使して開発阻止行動を起こしましたが、結局ニュータウン開発によって、山や森が破壊され狸や猪、鹿など野生動物の餌場が無くなってしまいました。

その後、狸や狐は人間に化けて、人間社会に溶け込んで獣害という形で抵抗しているという話でした。名張市でも多摩ニュータウン開発と同じ時期に大型宅地開発が起り、その後、猪や猿、鹿が住宅地に出没するようになり農作物などの被害が出ています。私は最近、昼間は猿、早朝や夜間には、狸や狐、鹿などによく遭遇します。農業や林業の衰退によって野生動物が増えているのも確かです。この映画は、人間と動物との共存・共生について考えさせられた映画だったと思います。

文・田北 利治

サル出没状況

名張A群の行動
2月中旬〜3月中旬は、ひなち湖・青蓮寺湖を行き来している現状の中で、特徴的なことは数年ぶりに百々集落に侵入したことや、奈垣集落内に数日滞在したことなどがあります。また、2月15日にはモンキードック倶楽部の皆さんが、つつじが丘北1番町で複数追いを実施されています。3月1日、名張猟友会による市内一斉獣害対策が実施されましたが、この群のサルたちは猟友会の事業が終わるまで山に潜んでいました。また、つつじが丘南8番町の住宅内に深く侵入したり、南6番町の市民農園にも侵入がありました。

以上、古川高志さん報告

名張B群の行動
B群では、B1発信器装着個体が群れに合流したことが確認されました。宇陀川南部の大和龍口や伊賀竜口、西谷地区周辺を遊動していましたが、近頃では比較的宇陀川に近い滝谷や宇陀川を越えた長瀬地区にまで足を伸ばしてきていて、大量捕獲前の誘導域に近づきつつあります。これからは春野菜の季節です。B群エリア集落は、油断せず十分な警戒が必要です。

